（５）　な　　す

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 苗立枯病 *Rhizoctonia solani*	1.床土は排水のよい無病のものを使う。 2.苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3.換気をよくし、床面を乾かす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.播種前または定植前の土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.クロピクテープ、ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤、リゾレックス水和剤はリゾクトニア属菌に登録がある。	土壌消毒	－ － － －	クロールピクリン クロピクテープ ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤
		播種前（種子粉衣）	14 M4	リゾレックス水和剤 オーソサイド水和剤８０
		播種時	14	リゾレックス水和剤
		発芽後	M4	オーソサイド水和剤８０
2 黒枯病 *Corynespora cassiicola*	1.被害茎葉は除去し、処分する。 2.茎葉が過敏茂にならないよう管理する。 3.苗床、ハウスは高温多湿にならないよう注意する。	発病前から	1 7 11 M5 M7 10･1 10･1 7･M5 NC･M1	トップジンＭ水和剤 ネクスターフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ダコニール１０００ ベルクートフロアブル （混）ゲッター水和剤 （混）ニマイバー水和剤 （混）ベジセイバー ジーファイン水和剤
3 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.過湿にならないように換気をよくする。 2.病葉、古花びらを除去し、処分する。 3.ポリマルチを行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病対象にダコニール１０００で防除しているところでは、疫病、褐色腐敗病の発生が少ない。	発病前から	1 1 2 2 2 7 7 7 9 11 12 19 52 M5 M7 10･1 10･1 10･2 11･7 7･M5 U13･9 11･M5 M7･17 M7･19	トップジンＭ水和剤 ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 ロブラール５００アクア スミレックス水和剤 アフェットフロアブル カンタスドライフロアブル パレード２０フロアブル フルピカフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 セイビアーフロアブル２０ ポリオキシンＡＬ水溶剤 ミギワ１０フロアブル ダコニール１０００ ベルクート水和剤 （混）ゲッター水和剤 （混）ニマイバー水和剤 （混）スミブレンド水和剤 （混）シグナムＷＤＧ （混）ベジセイバー (混)ショウチノスケフロアブル (混)アミスターオプティフロアブル （混）ダイマジン （混）ダイアメリットＤＦ
		ハウス内防除（くん煙）	2 2	ロブラールくん煙剤 スミレックスくん煙顆粒
		ハウス内防除（常温煙霧）	2	スミレックス水和剤
4 褐色腐敗病 *Phytophthora capsici*	1.排水をよくする。 2.マルチをする。 3.多発圃場での連作は避ける。 4.被害植物や果実は圃場から持ち出し、適正に処分する。	発病前から	21 40 U17 27･11 11･M5	ランマンフロアブル レーバスフロアブル ピシロックフロアブル (混)ホライズンドライフロアブル (混)アミスターオプティフロアブル

なす

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
5 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.過湿にならないように換気をよくする。 2.病葉、被害果を除去し、処分する。 3.夏期に湛水可能な圃地は、高温時に20日間以上湛水すると菌核が死滅するので有効である。 4.ポリマルチを行う。	発病前から	1	トップジンM水和剤
			1	ベンレート水和剤
			2	ロブラール水和剤
			2	スミレックス水和剤
			7	カンタスドライフロアブル
			7	アフェットフロアブル
			7	パレード20フロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			11	スクレアフロアブル
			52	ミギワ10フロアブル
			7･M5	(混)ベジセイバー
			10･1	(混)ゲッター水和剤
			10･1	(混)ニマイバー水和剤
			10･2	(混)スミブレンド水和剤
			11･7	(混)シグナムWDG
			M7･19	(混)ダイアメリットDF
		ハウス内防除(くん煙)	2	ロブラールくん煙剤
6 すすかび病 *Mycovellosiella nattrassii*	1.過湿にならないように換気をよくする。 2.被害茎葉を除去し、処分する。 3.ポリマルチを行う。	発病前から	2	ロブラール水和剤
			3	トリフミン水和剤
			3	トリフミン乳剤
			3	ラリー水和剤
			7	カンタスドライフロアブル
			7	アフェットフロアブル
			7	ネクスターフロアブル
			7	パレード20フロアブル
			7	カナメフロアブル
			11	アミスター20フロアブル
			11	ストロビーフロアブル
			19	ポリオキシンAL水溶剤
			M5	ダコニール1000
			M7	ベルクート水和剤
			M7	ベルクートフロアブル
			11･7	(混)シグナムWDG
			7･M5	(混)ベジセイバー
			11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
			M2･M1	(混)クリーンワイドフロアブル
			M7･17	(混)ダイマジン
			M7･19	(混)ダイアメリットDF
			M7･53	(混)フセキワイドフロアブル
		ハウス内防除(くん煙)	3	トリフミンジェット
7 青枯病 *Ralstonia solanacearum* 半身萎凋病 *Verticillium dahliae*	1.輪作は5年以上とする。 2.青枯病の予防には台太郎、トルバムビガーに接木する。 3.発病株は見つけしだい抜き取り、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.キルパーは半身萎凋病のみの登録である。 3.ベンレート水和剤は半身萎凋病のみの登録である。 4.ソイリーンは青枯病のみの登録である。 5.半身萎凋病にベンレート水和剤で防除しているところでは、半枯病の発生が少なくなる。	土壌消毒	－	クロールピクリン
			－	ドロクロール
			－	クロルピクリン錠剤
			－	クロピクテープ
			－	キルパー
			－	ガスタード微粒剤
			－	バスアミド微粒剤
			－･－	(混)ソイリーン
			－･－	(混)ダブルストッパー
		定植後	1	ベンレート水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

なす

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
8 うどんこ病 *Erysiphe cichoracearum* *Podosphaera xanthii* *Leveillula taurica*	1.密植を避け、風通し、日当りをよくする。 2.多発すると落葉しやすくなるが、株元に落ちた罹病葉は集めて処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンヨールはすすかび病にも登録がある。	発病初期	3	トリフミン水和剤
			3	トリフミン乳剤
			3	サプロール乳剤
			3	セーフガード乳剤
			7	アフェットフロアブル
			7	パレード２０フロアブル
			7	ネクスターフロアブル
			9	フルピカフロアブル
			11	アミスター２０フロアブル
			19	ポリオキシンＡＬ乳剤
			50	プロパティフロアブル
			M7	ベルクート水和剤
			M7	ベルクートフロアブル
			M10	モレスタン水和剤
			M10	パルミノ
			－	サンヨール
			－	サンクリスタル乳剤
			10･1	ニマイバー水和剤
			U6･3	(混)パンチョＴＦ顆粒水和剤
			U13･9	(混)ショウチノスケフロアブル
			7･M5	(混)ベジセイバー
			11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
			M2･M1	(混)クリーンワイドフロアブル
			M7･19	(混)ダイアメリットＤＦ
			M7･53	(混)フセキワイドフロアブル
			－･19	(混)デュアルサイド水和剤
			27･M5	(混)ブリザード水和剤
			NC･M1	(混)ジーファイン水和剤
		ハウス内防除（くん煙）	3	トリフミンジェット
9 褐紋病 *Phomopsis vexans*	1.排水や風通しを良くする。 2.発病した葉や茎、果実などは取り除き、適切に処分する。	発病初期	11	スクレアフロアブル
			52	ミギワ１０フロアブル
			M7	ベルクートフロアブル
10 褐色斑点病 *Thanatephorus cucumeris*	1.雑草を繁茂させない。 2.密植を避ける。 3.排水を良好にする。	発病初期	7	カナメフロアブル
11 ハダニ類	1.苗で本圃に持ち込まない。 2.圃場内や周辺の雑草処理を徹底する。 3.作物残さを放置すれば、ハダニ類の増殖源となるので、早めに処分する。	育苗期後半～定植当日	23	モベントフロアブル
		発生初期	6	アファーム乳剤
			6	コロマイト乳剤
			6	コロマイト水和剤
			6	アグリメック
			10B	バロックフロアブル
			13	コテツフロアブル
			20B	カネマイトフロアブル
			21A	ピラニカＥＷ
			23	モベントフロアブル
			25A	スターマイトフロアブル
			25A	ダニサラバフロアブル
			33	ダニオーテフロアブル
			－	サンクリスタル乳剤
			－･5	(混)ダブルシューターＳＥ
			25B･21A	(混)ダブルフェースフロアブル
			－･－	(混)デュアルサイド水和剤
		ハウス内防除（くん煙）	3A	マブリックジェット
			3A	ロディーくん煙顆粒
			3A	テルスター ジェット

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

なす

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
12 チャノホコリダニ	1.育苗はナス、ピーマンなどの本種の好適植物の近くでは行わない。 2.雑草からの移動もあるので、雑草処理を徹底する。 3.苗で本圃に持ち込まない。	育苗期後半～定植当日	23	モベントフロアブル
		発生初期	6	アファーム乳剤
			6	コロマイト乳剤
			13	コテツフロアブル
			20B	カネマイトフロアブル
			UN・ー	(混)クリーンワイドフロアブル
			21A	ピラニカEW
			23	モベントフロアブル
			25A	スターマイトフロアブル
			UN	モレスタン水和剤
			UN	パルミノ
			ー	サンクリスタル乳剤
13 アブラムシ類	1.圃場周辺の雑草処理を徹底する。 2.苗で本圃に持ち込まない。 3.シルバーマルチをする。 4.ハウス開口部を防虫ネット（1㎜目合以下）等で被覆すれば、被害を軽減できる。 ●発生初期 1.本虫を対象にベストガード粒剤で防除を実施しているところでは、ハモグリバエ類の発生が少ない。 2.ゴッツAは施設栽培で登録がある。	育苗期	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	ベストガード粒剤
		鉢上時～育苗期後半	28・4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半	4A	アドマイヤー1粒剤
			4A	アクタラ粒剤5
			4A	ダントツ粒剤
		育苗期後半～定植当日	23	モベントフロアブル
			28	ベリマークSC
			28	ヨーバルフロアブル
			4A・28	(混)アベイル粒剤
		定植時	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
			4A	アドマイヤー1粒剤
			4A	アクタラ粒剤5
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	ベストガード粒剤
		定植直後	28	ベリマークSC
		発生初期	3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	サイハロン乳剤
			3A	スカウトフロアブル
			3A	ロディー乳剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	テルスターフロアブル
			3A	マブリック水和剤20
			3A	アーデント水和剤
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンEW
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			23	モベントフロアブル
			29	ウララD F
			ー(生)	(生)ゴッツA
			3A・1B	(混)ハクサップ水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

なす

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
13 アブラムシ類 のつづき		ハウス内防除 （くん煙）	3A 4A	マブリックジェット モスピランジェット
		ハウス内防除 （常温煙霧）	4A	アドマイヤー水和剤
14 ネキリムシ類	1.植付け予定圃場では、除草に努める。 2.育苗床は、雑草の繁茂していないところに設ける。	播種または 植付け時	1B	カルホス粉剤
		育苗期後半 ～定植当日	28 28	プレバソンフロアブル5 ベリマークSC
		生育初期	3A	ガードベイトA
15 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.ハウス開口部を防虫ネット（4㎜目合以下）等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。	育苗期後半 ～定植当日	28 28	プレバソンフロアブル5 ヨーバルフロアブル
		鉢上時～ 育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		若齢幼虫期	5 6 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 13 15 15 18 22A 22A 22B 28 28 28 UN	ディアナSC アファーム乳剤 アニキ乳剤 バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 フローバックDF エコマスターBT サブリナフロアブル コテツフロアブル ノーモルト乳剤 アタブロン乳剤 ファルコンフロアブル トルネードエースDF ファイントリムDF アクセルフロアブル ヨーバルフロアブル フェニックス顆粒水和剤 プレバソンフロアブル5 プレオフロアブル
16 オオタバコガ	1.ハウス開口部を防虫ネット（4㎜目合以下）等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期（若齢幼虫期） 1.発育が進むと薬剤の効果が極端に落ちるので、早めの防除を心がける。 2.防除した後も成虫が飛来産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。	育苗期後半 ～定植当日	28	ヨーバルフロアブル
		発生初期 （若齢幼虫期）	5 6 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 13 15 15 18 22A 22A 22B 28 28 28 UN 3A･1B ー･5	スピノエース顆粒水和剤 アファーム乳剤 アニキ乳剤 トアローフロアブルCT ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF フローバックDF エコマスターBT チューンアップ顆粒水和剤 サブリナフロアブル ジャックポット顆粒水和剤 コテツフロアブル マッチ乳剤 アタブロン乳剤 ファルコンフロアブル トルネードエースDF ファイントリムDF アクセルフロアブル フェニックス顆粒水和剤 プレバソンフロアブル5 ヨーバルフロアブル プレオフロアブル （混）ハクサップ水和剤 （混）ダブルシューターSE

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

なす

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
17 コナジラミ類	1.苗による持ち込みに注意する。 2.施設栽培では、ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 4.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5.夏期には、栽培終了後ハウスを密閉して高温を保つ。 6.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期 1.アプロード水和剤はオンシツコナジラミ幼虫とタバココナジラミ幼虫（シルバリーフコナジラミ幼虫を含む）での登録である。 2.ファインセーブフロアブル、アベンジャーフロアブルは、タバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミを含む）に登録がある。	鉢上時～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		育苗期後半	4A	ベストガード粒剤
		育苗期後半～定植当日	23	モベントフロアブル
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベリマーク SC
			4A･28	（混）アベイル粒剤
		定植前日～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		定植時	4A	アクタラ粒剤5
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンEW
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			6	コロマイト乳剤
			6	アグリメック
			9B	チェス顆粒水和剤
			23	モベントフロアブル
			29	ウララD F
			UN	パルミノ
			－	サンクリスタル乳剤
			34	ファインセーブフロアブル
			34	アベンジャーフロアブル
			－･5	（混）ダブルシューターSE
18 オンシツコナジラミ		発生初期	3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	サイハロン乳剤
			3A	ロディー乳剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	マブリック水和剤20
			16	アプロード水和剤
			3A･1B	（混）ハクサップ水和剤
19 マメハモグリバエ	1.外部から苗を導入する際には、虫の有無に注意する。 2.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を防止する。 3.マルチ栽培は土中での蛹化防止に有効である。 4.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニールシート等で密封し、半月程度放置する。 5.改植時には土壌消毒を行い、蛹を死滅させるか、次回の作付まで20日程度おいて羽化してきた成虫を死滅させる。 6.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。	鉢上時～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	プレバソンフロアブル5
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベリマーク SC
		定植時	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	アクタラ粒剤5
			4A	ダントツ粒剤
		発生初期	4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			5	ディアナ SC
			6	アファーム乳剤
			6	コロマイト乳剤
			17	トリガード液剤

なす

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
19 マメハモグリバエ のつづき	8.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し(夏場の晴天日であれば１日処理が目安)、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。		28 30 UN －･5	ヨーバルフロアブル グレーシア乳剤 プレオフロアブル (混)ダブルシューターＳＥ
20 ミナミキイロアザミウマ	**〈薬剤使用の特記事項〉** ●定植時 1.アクタラ粒剤５はミカンキイロアザミウマにも登録がある。 2.本虫対象にベストガード粒剤で防除を実施しているところでは、ハモグリバエ類の発生が少ない。 ●発生初期 1.発生初期に集中的に防除する。 2.ハウス等温度の高い所で越冬するので注意する。 3.コテツフロアブルはミカンキイロアザミウマにも登録がある。 4.アグリメック、ダブルシューターＳＥはアザミウマ類に登録がある。 5.パイレーツ粒剤は施設栽培で登録がある。	鉢上時～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半～定植当日	23 28	モベントフロアブル ベリマークＳＣ
		定植時	4A 4A 4A 4A 4A	アドマイヤー１粒剤 ベストガード粒剤 アクタラ粒剤５ アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 5 5 6 6 13 15 23 34 34 UN －(生) －･5	アグロスリン水和剤 アグロスリン乳剤 アドマイヤー水和剤 アドマイヤーフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 スピノエース顆粒水和剤 ディアナＳＣ アファーム乳剤 アグリメック コテツフロアブル アタブロン乳剤 モベントフロアブル ファインセーブフロアブル アベンジャーフロアブル プレオフロアブル (生)パイレーツ粒剤 (混)ダブルシューターＳＥ
		ハウス内防除(くん煙)	4A	モスピランジェット
21 テントウムシダマシ類 (ニジュウヤホシテントウ)	1.ハウス開口部を防虫ネット（１㎜目合以下）等で被覆すれば、被害を軽減できる。	発生初期	1B 4A 4A 4A 13 22A 22B	スミチオン乳剤 アクタラ顆粒水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 コテツフロアブル ファイントリムＤＦ アクセルフロアブル
22 カメムシ類	1.ハウス開口部を防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆すれば、飛来を軽減できる。 1.水田への転換可能なところでは、１～２年畑を水田化する。 2.苗からの持ち込みを防止する。	発生初期	1B 3A 4A 4A 4A	マラソン粉剤３ アディオン乳剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤

なす

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
23 センチュウ類	1.水田への転換可能なところでは、１～２年畑を水田化する。 2.苗からの持ち込みを防止するため、センチュウ類や病害のおそれのない用土を使用する。 3.抵抗性台木を利用する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.キルパー、ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤、ネマトリンエース粒剤はネコブセンチュウに登録がある。 3.ソイリーン、ダブルストッパーはネコブセンチュウとネグサレセンチュウで登録がある。 4.ネマトリンエース粒剤はミナミキイロアザミウマ、ハダニ類にも登録がある。	定植前（土壌消毒）	8B	クロールピクリン
			8B	ドロクロール
			8B	クロルピクリン錠剤
			8F	キルパー
			8F	ガスタード微粒剤
			8F	バスアミド微粒剤
			8A･8B	（混）ソイリーン
			8A･8B	（混）ダブルストッパー
			8A･8F	（混）ディ・トラペックス油剤
		定植前	1B	ネマトリンエース粒剤